

## 第 2 学年 英語科 学習指導案

### 【本時の主張】

後期から当校に赴任する ALT のために生徒が考えた学校周辺のおすすめの場所について、**There is[are]~**や動名詞を含む 5 文程度の紹介文を書く授業である。

英語で即興的に表現することを今年度の大きな目標として指導を工夫してきたが、部分的に即興的な表現ができたとしても、発話全体が即興であるとは言い難く、文全体の構成に改善の余地が多いことがわかった。そこで、まとまりのある内容の文を「書くこと」の練習を積むことによって文の構成力を向上させ、文の構成を意識した英語を「話すこと」につなげることができると考えた。

そこで本時は、以下のような手だてを講じることとした。

- ① **活動への動機づけ**：学校周辺のことをほとんど知らない ALT におすすめの場所を紹介するためのガイドブック【*Kuchi-Komi Guide* ○○(地域名) 2013】を作るという単元を貫く目標を設定することにより、生徒に明確な目的意識をもたせる。
  - ② **モデル提示**：ガイドブックに載せる紹介文のモデルを提示する。モデルを材料にじっくり検証することで、目的や状況、読み手に応じた紹介文にふさわしい構成、内容、言語材料とは何かを考え、全体で共通理解することができる。
  - ③ **Small Write**：ガイドブックの原稿を書く場面を設定する。生徒には事前アンケートを取り、結果をまとめたものを提示する。これを参考にして生徒は学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書く。読み手である ALT にとって魅力的な紹介文を書きたいという意欲はあるが基本的な文型や語彙が不足しているという生徒の困り感を取り上げ、使えそうな語句をまとめたリストを必要に応じて与えるなどにより、どの生徒も自信をもって活動に取り組むことができる。
- ①によって明確な目的意識をもった生徒に、③によって作文の必要感のある状況を設定することにより、生徒は②を通じて確認した構成、内容、言語材料に基づいて自分の書きたいことを書けるようになる。

1. 単元名 Lesson 4 Enjoy Sushi New Crown English Series 2 (三省堂)

2. 単元の目標

- ・ 学校周辺のおすすめの場所を ALT に紹介するガイドブック【*Kuchi-Komi Guide* ○○(地域名) 2013】を作る。
- ・ **There is [are]~**や動名詞に関する知識を身に付けている。
- ・ 教科書 p.38, 40, 42-43 の内容を理解する。

3. 単元の評価規準

評価の観点	単元の評価規準
関心・意欲・態度	・ 間違ふことを恐れず積極的に紹介文を書いている。

表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>• There is [are]~.や動名詞を含む文などを用いて、ALTに向けた学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書くことができる。</li> </ul>
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>• There is [are]~.や動名詞を含むガイドブックの説明を読んで、その内容を読み取ることができる。</li> <li>• There is [are]~.や動名詞を含む会話を聞いて、その要点を聞き取ることができる。</li> </ul>
言語・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• There is [are]~.や動名詞に関する知識を身に付けている。</li> <li>• 教科書 Lesson 4 で扱われた単語・表現についての知識を身に付けている。</li> </ul>

#### 4. 単元と指導の構想

##### (1) 単元について

「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」と学習指導要領にあるとおり、小学校での外国語活動では文字を介さず、「積極的に外国語を聞いたり、話したりすること」に焦点化した活動が組織された。そして中学校では、4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）の総合的な育成が求められている。4技能をバランスよく織り交ぜながら指導し、「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことに意識的に取り組む必要がある。

これまでの指導では主に「話すこと」に重きを置いて指導してきた。特に即興的な英語で自分の考えや事実、集めた情報などを聞き手に伝えることは、中学校英語3年間の最終的な目標として取り組んできた。これまで即興的な発話につなげるための手だてを工夫してきたが、部分的に即興的な発話ができる場面はあったものの、発話全体を即興で組み立てられるかという点、そこには大きな壁があった。その原因として考えたのが、発話する文の構成力不足という点である。まとまりのある内容の文を作るための視点の一つである構成する力をつけるために、文の構成を意識させて「書くこと」の練習場面を設定し、繰り返し取り組ませることが有効であると考えた。

そこで本単元では、後期から当校に初めて勤務するALTからのメールを読み、この地域にはどんなおすすめの場所があり、そこでは何ができるのかについてなどをまとめた紹介文を書き、それらをまとめたガイドブック【Kuchi-Komi Guide ○○（地域名）2013】を作ってALTに贈るというゴールを単元終末に設定した。「書くこと」を柱として本単元を組み立て、文全体の構成を意識してまとまりのある内容を書く練習を仕組むことで、「話すこと」の力の醸成にもよい効果が得られると考えた。

##### (2) 生徒について

1年時から継続的に音読の練習に熱心に取り組んでおり、「話すこと」に対する関心の高い生徒が多い。反面、「書くこと」の定着には個人差が大きく、家庭での練習量との関係が強いと考えられる。また、「書くこと」に関するこれまでの様子からわかることは、ターゲットとなる文法や文型が明確であれば、それらを用いて単文を書くことはできるが、自己紹介や手紙文など、場面や状況に合ったまとまりのある英文を書くことは苦手になっている生徒が多いということで

ある。

そこで本単元では、学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書き、ガイドブックとしてまとめて ALT に贈るという活動を設定した。目的や状況、読み手が明確な課題を与えることで、生徒は明確な目的意識をもって課題に取り組むことができる。

### (3) 指導の構想

以下のような手だてを軸に本単元の指導を進める。

#### ① ALT を結びつけた活動への動機づけ

生徒が間違いを恐れずに積極的に英語で活動に取り組むためには、英語を使う必然性を設定し、自然に英語を使う状況設定の工夫が不可欠となる。

そこで、今年度の後期から当校で勤務する ALT を迎えるために、学校周辺のおすすめの場所（観光スポット、食事、買い物）を紹介するガイドブック【Kuchi-Komi Guide ○○（地域名）2013】を作るという活動を設定し、自然な状況設定のもとで、英語を使って紹介文を「書くこと」に取り組めるようにした。

#### ② 紹介文モデルの提示

ガイドブックに載せるためのおすすめの場所の紹介文にふさわしい構成や内容、言語材料とはどのようなものなのかを吟味させるために、生徒に期待する紹介文のモデルを提示する。モデルの吟味を通して、今回の目的や状況にあった紹介文としてふさわしい構成、内容、言語材料について考えさせ、目指す紹介文に必要とされるポイントを生徒の声を活かしながら黒板に整理していく。教師が用意した「正解」を一方向的に押し付けてしまうのではなく、生徒自身の実感や生徒同士の話し合いの中から生まれたアイディアを活かしながら考えを整理する作業を通して、生徒にとってより身近な、自分たちで導き出した紹介文ができる。こうしてまとめられたものを全体で共有することで、紹介文を書く際の大きな拠り所となる。

#### ③ Small Write

ガイドブックの原稿を書く活動を設定する。昨年度、【My Favorite Place in My School】というテーマで英作文に取り組み、Show & Tell 形式での発表に取り組んだ。このことを活かし、学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書き、ガイドブック【Kuchi-Komi Guide ○○（地域名）2013】としてまとめて、ALT に贈ることにする。これにより生徒は「紹介文」という同様のジャンルの英作文に繰り返し取り組むことができる。

教科書 p.42-43“Enjoy Sushi”では外国人向けのガイドブックでの日本の寿司の紹介という設定であり、p.45 の USE Write「町の名所を紹介しよう」ではネット掲示板での観光地紹介の書き込みという設定である。紹介文を1つのジャンルとしてとらえ、繰り返し作文に取り組ませることで、まとまりのある内容の紹介文を書く力の確実な定着を図る。

5. 単元の指導計画（全9時間）

次/時		学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価				
			関	表	理	知	評価規準
1	①	<p>○There is[are]~.の文の意味を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ There is[are]~.の文を聞いてイラストを完成させる</li> <li>・ 2枚のイラストの違いを There is [are]~.の文で表す</li> </ul>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ There is [are]の文を聞いて正しくイラストを完成させることができる</li> <li>・ There is [are]~.の文を使って2枚のイラストの違いを正しく説明することができる</li> <li>・ There is[are]~.の文の意味や用法に関する簡単な問いに答えることができる</li> </ul>
	②	<p>○動名詞の文の意味を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動名詞の文を聞いてその人物が誰なのか予想する</li> <li>・ 動名詞の文を使ってお互いの好きなことをペアで尋ね合う</li> </ul>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある人物に関する動名詞の文を聞いてその人物が誰なのかを予想することができる</li> <li>・ お互いの好きなことについて動名詞の文を使ってペアで尋ね合うことができる</li> <li>・ 動名詞の文の意味や用法に関する簡単な問いに答えることができる</li> </ul>
2	① 本時	<p>○There is[are]~.や動名詞を使って、ALT に向けて学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書く①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALT からのメールを読み、ALT が知りたいことを理解する</li> <li>・ モデルをもとに、紹介文にふさわしい構成、内容、言語材料とはどんなものなのかを整理する</li> <li>・ おすすめの場所を自分で設定し、There is[are]~.や動名詞を使って5文程度の紹介文を書く</li> </ul>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介文にふさわしい構成、内容、言語材料とはどんなものなのかをワークシートに書くことができる</li> <li>・ 紹介文として適切な構成、内容、言語材料で、自分で設定した場所についての5文程度の紹介文を、There is [are]~.や動名詞を使って書くことができる</li> </ul>
3	①	<p>○教科書 p.38 の内容を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の Oral Introduction を聞く</li> <li>・ ブラウン先生と健の対話の内容を理解する</li> <li>・ 音読練習する</li> </ul>		○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブラウン先生と健の対話の内容についての問いに答えることができる</li> <li>・ 英語の音声の特徴を意識して音読することができる</li> </ul>
	②	<p>○教科書 p.40 の内容を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の Oral Introduction を聞く</li> </ul>		○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久美の話の内容についての問いに答えることができる</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・久美の話の内容を理解する</li> <li>・音読練習する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の音声の特徴を意識して音読することができる</li> </ul>
4	① ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書 p.42-43 の内容を理解する</li> <li>・教師の Oral Introduction を聞く</li> <li>・ワークシートに沿ってガイドブックの概要を理解する</li> </ul>			○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに沿ってガイドブックの概要を理解することができる</li> <li>・教科書 p.42-43 で扱われている単語・表現の意味を理解することができる</li> </ul>
5	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書 p.44 の英語を聞き取る</li> <li>・ナンシーと観光案内所の係員との対話を聞き取る</li> <li>○There is[are]~.や動名詞を使って、ALT に向けて学校周辺のおすすめの場所の紹介文を書く②</li> <li>・第2次で取り上げていない分野（観光スポット、食事、買い物）についての紹介文を書く</li> <li>・書き上げた紹介文をグループ内で回し読みし、アドバイスし合う</li> <li>・アドバイスをもとに紹介文を手直しして、紹介文の下書きを完成させる</li> </ul>	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンシーと案内所の係員の会話の内容についての問いに答えることができる</li> <li>・内容的にまとまりのある5文程度の紹介文を書くことができる</li> <li>・グループの他のメンバーの書いた紹介文を読んで適切にアドバイスすることができる</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイドブック【Kuchi-Komi Guide 〇〇（地域名）2013】を完成させる</li> <li>・完成した下書きをもとに紹介文を清書する</li> </ul>	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・There is[are]~.や動名詞を正しく使って紹介文を書くことができる</li> </ul>

## 6. 本時の計画（全9時間、本時3時間目）

### (1) 本時のねらい

- 提示されたモデルがガイドブックに載せる紹介文としてふさわしいと言える理由を、構成、内容、言語材料の3つの視点から捉え、振り返りワークシートに記述することができる。
- 適切な構成、内容、言語材料で、学校周辺のおすすめの場所を ALT に伝えるための5文程度の紹介文を書くことができる。

### (2) 本時の構想

本時は ALT からのメールを読み取ることから、本単元のゴールを共通理解することから始める。ALT に贈るガイドブックに載せる紹介文を書くという目的や、当校周辺のことをほとんど知らない外国人向けという状況などを考えたときにどのような内容や構成がいいのかということを生徒同士で吟味し、紹介文にふさわしい型（フォーム）をクラス全体で共有する。このフォームをもとに自分で設定した場所の紹介文を書くための練習をするのが本時である。

それぞれの手だての具体は以下のとおりである。

## ① 活動への動機づけ

後期から当校に新たに ALT が赴任する。この ALT から届いたメールを紹介することから始める。生徒の興味関心を刺激し、メールの内容にグッと入り込ませるために、最初は ALT 本人による音声のみを聞かせ、ALT の顔写真を見せて実感を高める。その後でメール本文を掲示し、ワークシートを配付する。

Hello, Mr○○ (教師の名前) . and students,

I'm ○○ (ALT の名前) . I'm an ALT and I will go to ○○ (学校名) JHS from October. This is my first time working at ○○ (学校名) , so I'm a little nervous. I don't know anything about ○○ (学校名) . I hear ○○ (学校名) students are very good students. Am I right?

I like sightseeing. I think Niigata is a nice city. How about your place? Are there any nice sightseeing spots near ○○ (学校名) ?

I like eating too. I like ramen, tarekatsu-don, sushi, pasta etc. Are there any good restaurants near ○○○ (学校名) ?

I like shopping too. I like books, clothes, CDs, stationeries etc. Are there any good shopping places near ○○○ (学校名) ?

I need more information about your place. Please tell me.

I'm looking forward to working with you and studying with ○○○ (学校名) students. Yoroshiku onegai shimasu!

こんにちは、Mr○○ (教師の名前) .と生徒のみなさん

私は○○ (ALT の名前) です。私は ALT で、10月から○○中学校に行く予定です。○○中学校で働くのは私にとって初めてのことで、少し緊張しています。○○中の生徒はいい子ばかりだと聞いています。ですよ。

私は観光が好きです。新潟は素敵な街だと思います。あなた方の場所はいかがですか。○○中の近くにはどこかいい観光スポットはありますか。

私は食べることも好きです。ラーメンやたれカツどん、寿司、パスタなどが好きです。○○中の近くにはいいレストランはありますか。

私は買い物も好きです。本や洋服、CD や文具などが好きです。○○中の近くには買い物をするのによい場所はありますか。

皆さんの地域についての情報をもっと必要なんです。教えてください。

あなたと仕事をすること、○○中の生徒の皆さんと勉強することを楽しみにしています。ヨロシクオネガイシマス。

ワークシートにはメール本文とメールの内容理解のための設問を含める。この設問の答えを全体で確認し、メールの内容を共通理解する。そして、「ALT の○○ (ALT の名前) 先生は私たちに何をしてほしいのだろう。」という発問により、本単元の最終ゴールであるガイドブック作成の話につなげる。学校周辺にあるおすすめの場所を、観光スポット、食事、買い物という3つのカテゴリーについて紹介するガイドブック【Kuchi-Komi Guide ○○(地域名) 2013】を作るという目標を提示する。このようにして紹介文の目的や状況、相手(読み手)を具体的に確認することで、生徒がこの活動に取り組む目的意識を明確にする。

## ② モデルの提示

ガイドブックに載せる紹介文としてふさわしい構成、内容、言語材料とはどのようなものな

のかを考えさせるための材料として、生徒に期待する紹介文のモデルを提示する。

【紹介文モデル】

Hello, ○○ (ALT の名前) . I'm ○○ (自分の名前) . I have good information for you. There is a tall building near our school. It's Next 21. It's in Furumachi. We can enjoy watching a great view of Niigata City from the top floor. There are many shops in the building. We can enjoy shopping too. Why don't you go? I hope you'll like it.

ここで再度、この紹介文の目的、状況、読み手の3点を確認する。ALT に贈るガイドブックに載せる紹介文を書くという目的、学校周辺のことをほとんど知らない外国人であるという状況、そして、日本語ではなく英語が母国語である ALT という読み手。この3点を考えたときにどのような構成で書けばよいのかを、これまで学習してきたことを振り返らせながら考えさせる。

Opening, Body, Closing という3つのパート構成で書くことが確認できたら、次はそれぞれのパートにはどのような内容がふさわしいのか考えさせる。出だしの Opening には名前の紹介や挨拶、最後の Closing には読み手を誘う表現、そして紹介文の中心となる Body には自分がおすすめる場所、そこでは何ができるのか紹介することが効果的ではないか、といった生徒の声を黒板で整理する。

そしてどのような言語材料を使うと、伝えたいことがより伝わりやすくなるのかについても考えさせる。本単元で学習した There is[are]~.を使って紹介文の導入をしたり、動名詞を使うことでその場所でできることを紹介したりすることができるという意見が出てくることを期待したい。

### ③ Small Write

ガイドブックの原稿を書く場面を設定する。生徒には学校周辺でおすすめの場所を、観光スポット (Sightseeing), 食事 (Eating), 買い物 (Shopping) の3つのカテゴリー別にアンケートを事前に取り、その結果を集約したものを提示する。この中から本時に取り上げたい場所を生徒が自分で選択したり、あるいは自分で考えたりして題材を決定し、その紹介文を5文程度の英文で書く。手だて②によって、生徒は目指すべき紹介文の全体像をイメージできる。

読み手にとって魅力的な紹介文を書きたいという意欲はあるが、基本的な文型や語彙が不足しているという生徒の困り感が出てきたら、あらかじめ用意しておいた、作文の役に立ちそうな語句をまとめたリストを補助資料として必要な生徒に与え、どの生徒も自信をもって活動に取り組むことができるよう工夫する。

手だて①によって明確な目的意識をもった生徒に、手だて③によって作文の必要感のある状況を設定することにより、生徒は手だて②を通じて確認した構成、内容、言語材料に基づいて、自分の設定したおすすめの場所の紹介文を間違うことを恐れずに積極的に書くことができる。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動・形態	主な授業者の働き掛け（○）と予想される生徒の反応（●）	指導上の留意点と評価
<p>[Intro]</p> <p>・英語の歌を流す</p>	<p>○雰囲気リラックスさせると同時に、英語学習に気持ちを切り替えられるように、授業開始前に今月の歌を流す。</p>	
<p>[Greetings]</p> <p>・英語で挨拶する</p>	<p>○英語で元気に挨拶しながら、生徒の様子を観察する。</p>	
<p>[Motivating] 10min.</p> <p>・ALTからのメールの内容をつかむ</p> <p>・単元の学習課題を把握する</p> <p>【一斉・個人】</p>	<p>○ALTから届いたメールを紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Last week I got a mail from our new ALT. He needs our help. What can we do for him?</p> </div> <p>-音声を聞かせる</p> <p>-ALT本人の顔写真を見せたうえで聞かせる</p> <p>-メール本文を黒板に掲示する</p> <p>-本文と内容に関する設問を含むワークシートを配付する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【メール本文】</p> <p>Hello, Mr ○○（教師の名前）. and students,</p> <p>I'm ○○（ALTの名前）. I'm an ALT and I will go to ○○（学校名） JHS from October. This is my first time working at ○○（学校名）, so I'm a little nervous. I don't know anything about ○○（学校名）. I hear ○○（学校名） students are very good students. Am I right?</p> <p>I like sightseeing. I think Niigata is a nice city. How about your place? Are there any nice sightseeing spots near ○○（学校名）?</p> <p>I like eating too. I like ramen, tarekatsu-don, sushi, pasta etc. Are there any good restaurants near ○○（学校名）?</p> <p>I like shopping too. I like books, clothes, CDs, stationeries etc. Are there any good shopping places near ○○（学校名）?</p> <p>I need more information about your place. Please tell me.</p> <p>I'm looking forward to working with you and studying with ○○（学校名） students. Yoroshiku onegai shimasu!</p> </div> <p>【内容確認のための設問】</p> <p>(1)メールの差出人の○○（ALTの名前）とは？</p> <p style="margin-left: 20px;">a) 10月から○○中学校に初めて来るALT</p> <p style="margin-left: 20px;">b) ○○中学校の近くに住んで10年目のALT</p> <p>(2)○○（ALTの名前）は○○中学校のことを…</p> <p style="margin-left: 20px;">a) よ〜く知ってるから安心</p>	<p>・さまざまな方法でメールを提示することでメールの内容に意識を向けさせ、どの生徒も積極的にメールの内容を理解しようとする態度がもてるようにする。</p> <p>・メールの内容に関する設問の答えは選択式にして、どの生徒も短時間で内容が確認できるようにする。</p> <p>・紹介文の目的、状況、相手の確認につながるような設問を設定した。</p>



	<p>b) 知らないことだらけで不安</p> <p>(3) ○○ (ALT の名前) が好きだって言ってることは? (あてはまるものを○で囲もう)</p> <p>a) ガーデニング b) 観光 c) 料理 d) 食べること e) 買い物 f) ジョギング</p> <p>○生徒を指名し、ワークシートの設問の答えを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○○ (ALT の名前) 先生のために、私たちには何ができるのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「このへんのお店とかの情報を教えてあげる。」 ←○ 「どうやって教えてあげようか。」</li> <li>• 「まさか一人ひとり直接話すとか?」 ←○ 「まだ来ないしね、時間もかかりそうだから、今回は…」</li> <li>• 「手紙にするとか。」 ←○ 「手紙もよさそうだけど、今回はこんなのはどうだろう?」</li> </ul> <p>○本単元の最終ゴールを黒板に掲示する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学校周辺のおすすめの場所を紹介するガイドブック 【Kuchi-Komi Guide ○○ (地域名) 2013】を作って○ ○ (ALT の名前) 先生にプレゼントしよう!</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒の発言を引き出しながら単元のゴールであるガイドブック作成に導く。</li> <li>• 単元の学習課題を黒板に掲示する。</li> </ul>
--	---	--



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最初に自己紹介とか挨拶があるから、...for you.の後に区切り ました。」 (←名前と挨拶だね。)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>この出だしのパートを何て呼ぶといいでしょう。1年生の時に学習したこと、覚えているかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Opening だ！」</li> <li>・「そのあとがたしか Body で、最後に…Closing だ。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それでは先に Opening と Closing がどこなのかを確認してしま いましょう。どこからが Closing だと考えたらいいでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Why don't you~?からが Closing だと思います。」</li> <li>・「誘ってる感じがする。」 (←誘う表現だね。)</li> <li>・「最後は『気に入ってくれるといいな』って、挨拶っぽい感じ。」 (←結びの挨拶、かな。)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それでは、紹介文のメインとなる Body の部分にはどんな内容 が書いてあるのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まずは…場所のジャンル。観光地だって。」 (←場所のジャンルね。)</li> <li>・「〇〇(近くの建物の名前) のこと。」 (←〇〇(近くの建物の名前) についてどんなふうに紹介して るかな?)</li> <li>・「背が高いビルで、古町にある。」 (←どこにあるのかだね。)</li> <li>・「最上階からの眺めがいい。」 (←できることだね。)</li> <li>・「店がたくさんあって、買い物ができる。」 (←それもできることの1つだね。)</li> <li>・「習ったばかりの There is~.が使っている。使えそうだ。」</li> <li>・「眺めが楽しめる。」</li> <li>・「これって動名詞でしょ。これも今回やった。」</li> <li>・「店がたくさん入っていて、買い物が楽しめる。」</li> </ul> <p>○黒板に書き込んだポイントをもう一度確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Opening, Body, Closing はカードで 用意する。</li> <li>・ 先に Opening と Closing を確認して から、メインの Body の内容を押さえる。</li> <li>・ 生徒の発言を受けて、 黒板に貼ったモデル 文にキーワードなど を書き込みながら整 理していく。</li> </ul>
<p>[Small Write] 15min. ・題材を決めて紹介文を 書く 【個人】</p>	<p>○ワークシートを配布し、紹介文を書くよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それではさっそく紹介文を書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこにしようか。わからないな。」</li> <li>・「学校の周辺って言っても…迷うなあ。」</li> </ul> <p>○この生徒の声を聞いて、事前に行った学校周辺のおすすめの場</p>	<p>【評価】 ✓構成、内容、言語 材料を意識した 紹介文 A: 紹介文としてふ</p>

	<p>所アンケートの集計結果を提示する。</p> <p>みんながそう言うと思ったから、この間みんなにアンケートに協力してもらったわけです。参考にしてください。</p> <p>○集計結果を紹介する</p> <p>紹介する場所をこの中から選んでも、これ以外の場所にしても構いません。今日は観光スポット、食事、買い物の中のかか1か所について、5文程度の紹介文を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分が紹介したい場所を決め、作文を始める。</li> </ul> <p>○必要に応じて作文フォームをまとめた補助資料を与える。</p> <p>○机間指導しながら、作文がうまく進まない生徒の言葉に耳を傾ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「その場所で何ができるのかうまく説明できない。」</li> </ul> <p>○この生徒の声を受けて、作文をいったん中断させる。</p> <p>おすすめの場所でできることについてうまく書けないという相談があったんだけど、どうかな？うまく書けてるかな？どんなことが伝えたいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「『のんびりする』は何て言うの？」</li> <li>• 「『昼寝する』は？」</li> <li>• 「『ハトに餌をあげる』とか？」</li> </ul>	<p>さわしい構成、内容、言語材料を用いて、5文程度の英文が正しく書ける。</p> <p>B: 文法やスペルに多少の誤りはあるけれども、紹介文としてふさわしい構成、内容、言語材料を用いて、5文程度の英文が書ける。 (ワークシートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 語彙や表現に関する生徒の困り感を受けて、紹介文で役に立ちそうな表現をまとめたリストを補助資料として希望者に渡す。</li> </ul>
<p>[Conclusion] 5min.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の学習を振り返る【ワークシート】</li> <li>• 次時の予告をする</li> </ul>	<p>○振り返りワークシートを配布して本時のまとめをする。</p> <p>○Kuchi-Komi Guide ○○(地域名) 2013 に載せるには、どんな紹介文がふさわしいだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> どんな構成で？</li> <li><input type="checkbox"/> どんな内容を？</li> <li><input type="checkbox"/> どんな表現を使って？</li> </ul> <p>○書きたかったけど書けなかった表現は</p> <p>○Small Write への取組の自己評価(4段階)</p> <p>○本時の感想</p> <p>○紹介文のワークシートと振り返りワークシートを集める。</p> <p>○次時の学習の予告をする。</p>	<p>【評価】</p> <p>✓ 紹介文にふさわしい構成、内容、言語材料の理解 (ワークシートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「書きたかった表現」は、次時以降に生徒にフィードバックする。</li> </ul>
<p>[Greetings]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英語で挨拶する</li> </ul>		

(4) 本時の Small Write の評価基準

<p>【A 評価の例】</p> <p>Hello, ○○ (ALT の名前) . I'm ○○ (自分の名前) . I have good information for you.</p> <p>There is a tall building near our school. It's ○○ (おすすめの場所) . It's in Furumachi. We can enjoy watching a great view of Niigata City from the top floor. There are many shops in the building. We can enjoy shopping too.</p> <p>Why don't you go? I hope you'll like it.</p>
<p>【B 評価の例】</p> <p>Hello, ○○ (ALT の名前) . My name ○○ (自分の名前) . I have a good information for you.</p> <p>There is tall building near our school. It's ○○ (おすすめの場所) . It's Furumachi. We can enjoy watching Niigata view. There are many shop. We can enjoy shoping too.</p> <p>Why don't you go? I hope you'll like it.</p>

(5) 振り返りワークシートの評価基準

- ①構成, ②内容, ③言語材料の3つの項目に関して,
- 3項目すべてにおいて適切な記述がなされている …A 評価
- 2項目で適切な記述がなされている …B 評価

【3つの項目に関する適切な記述の例】

構 成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Opening, Body, Closing の3つのパートに分けて書くとわかりやすい。</li> <li>• 3つに分けて書いたら, まとまりのある英文になったと思う。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手が求めていることを理解して, それに合った内容を書くといい。</li> <li>• ガイドブックだから, 場所のジャンルやそれがどこにあるのかなどを具体的に書くとわかりやすい。</li> </ul>
言語材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この課で学習した <b>There is~</b>. を使うと, 何がどこにあるのかが伝わりやすくていい。</li> <li>• 動名詞を使ったら, その場所でできることがわかる英文が書けた。</li> <li>• 前の課でやった <b>I think that...</b> を使って自分の考えを伝えることができた。</li> </ul>